

地域の魅力の掘り起こしとその活用

～「地域の魅力を公民館が引き出す」

…4件の空き家を核としたUIターン受け皿整備の取り組みを公民館が支援～

出雲市鵜鷺コミュニティセンター

1. 鵜鷺コミュニティセンターの概要

島根半島の西端に位置する漁村、鵜鷺地区はかつて北前船の寄港地として、あるいは銅を産出して栄えていた。しかし、50年前まで1700人いた人口は今では280人まで減少している。高齢化率は60%に達するなど、産業の空洞化で職を求めて若い人が都会へ出て行き、過疎、高齢化が急速に進み、今は地区存続の危機感をもっている。人口が減る中で地区を維持し、伝統行事を守り抜く困難な仕事を放棄するわけにはいかない。

鵜鷺地区は海と山で出雲市中心部から隔てられていることから、人の往来が少なく自然がそのまま残った美しい地域である。

美しい自然と古い街並み、げんきな高齢者とたくさんある空き家など残された資源を活用することで地区を元気にしていこうと活動する”鵜鷺げんきな会”が平成17年に誕生した。地区活動の総合的な拠点として鵜鷺コミュニティセンターはその活動を支援していきたい。

2. 事業の概要

(1) はじめに

4軒の空き家を借り、宿泊施設に整備し安く貸し出して都会の人に田舎体験に訪れてもらう。たくさんの人にきてもらうには地区の魅力を引き出すことが大切で、そのために次の事業を計画している。また高齢者に小遣い銭が入る仕事の創出をはかり、まずは団塊世代のUターン者の仕事場づくりをしていく。

(2) 具体的な取り組み（内容、活動状況 等）

- ① 自然、街並み、伝統行事など地区の魅力を発掘し、HPで週1回のペースで発信するとともに地区内外から記事を集め内容の充実をはかった。



(平成18年6月アップ)



(平成18年9月アップ)

② 古い街並と海、山のガイド、塩炊き体験、カジカ蛙や蛍の観賞会、古い歴史探訪活動実施



(宿泊所 山城屋全景)



(塩炊き体験 大人)



(塩炊き体験 子供)



(カジカと蛍の鑑賞会)



(古い歴史探訪活動)



(古い歴史探訪活動)

③ センター内の資料展示の充実と案内



(展示品)



(展示品)

④ 地区の見所ガイドブック作成



(ガイドブック写真)



(ガイドブック写真)

- ⑤ 伝統行事保存支援（シャギリの小学生指導、祭りに出身者の帰省呼びかけ、衣裳、面の更新と管理）



（シャギリの風景：大人）



（シャギリの風景：小学生）

- ⑥ 高齢者ができる小さな産業（塩炊き、空き家の管理、磯遊覧、干し柿づくり、ハナノキ栽培など）の創出



（高齢者が取り組む磯遊覧の様子）



（高齢者が取り組む塩炊きの様子）

3. 事業の成果

- （1）平成18年6月にHPを開設して以来アクセス数が20,000回に達した。地区の魅力がたくさん発掘できて、地区出身者から楽しみに見ていると評価されている。出身者外からも面白いとの声が届いている。
- （2）情報発信、観光開発の結果として訪れる人が増加した。
宿泊客 60人、塩炊き体験者 110人、海の遊覧など 70人などのお世話をした。
出雲市長と関係部署の方10数名と共に視察があり、約2.5時間をかけて案内した。市長から支援の約束があった。
塩炊きの活動内容が日本海テレビ、NHKテレビ、出雲ケーブルテレビで放映また、島根日日新聞、産経新聞、山陰中央新聞、朝日新聞など多方面で取り上げられた。
地域の実践者として“しまね田舎ツーリズム大会”、“市民と行政のパトナーシップを如何に”でパトナーを務め活動状況を話した。

- (3) 鵜鷺の風景写真CD、銅山と北前船で栄えた鵜鷺地区パンフレット作成を作成した。
- (4) 伝統行事の正月のシャギリ舞に小学生が学校教育活動で活動するなど、多数の出身者の支援を受けて盛大に実施された。また助成金を受けて小太鼓、鑿、面やその衣装を整えた。
- (5) 塩の評判が非常に高く思った以上に売れている。塩炊き、その体験指導者、空き家の世話人、遊覧船、釣り船の漁師さん、海辺の暮らし体験ツアーを定住支援センターと実施時のスタッフに少しばかりの謝礼ができた。産業の創出の第一歩を歩みだしたところである。

4. 課題と今後の取り組み

限界集落を再生しようとする取り組みであり、半年あまりの活動では鵜鷺地域の将来の展望や方向性などはまだ見えていない。3～5年で定住人口を含めた交流人口の増加、マスコミでの積極的な取材など何か変化が見えてくれば大きな成果があったと考えたい。

今回の地域力醸成プログラムのモデル公民館となったが、これらの活動を実施するためには、地区内の各種団体との協働が必要であり、従来の公民館活動を大きくはみ出さないといけない活動である。また、試行錯誤で進める面も多く、長期的展望をもって活動を展開していきたい。